

ニューカレドニア南部州 首都ヌメアと 南太平洋の宝石箱、イル・デ・パン

Nouvelle Calédonie

世界で2番目に大きなバリアリーフを持つニューカレドニア。その首都、ヌメア。そして、そのヌメアから東南東約100kmに位置する、観光客に人気の美しい島、イル・デ・パン。今回は、ニューカレドニア南部州の人気スポット2カ所の海に潜った。群れ、定番の大物のみならず、他では見る事のない固有種、レアな大物との遭遇と、毎回のダイビングが興奮の連続だった。北部州に続く、ニューカレドニア特集第2弾！



■世界自然遺産登録エリア

空から、入組んだ入り江と、そこに広がるヌメアの美しい町並みを見下ろす



#01 Ile des Pins

#02 Nouméa



ピッシンヌ・ナチュレル
では、スノーケリングを
楽しむ観光客も多い

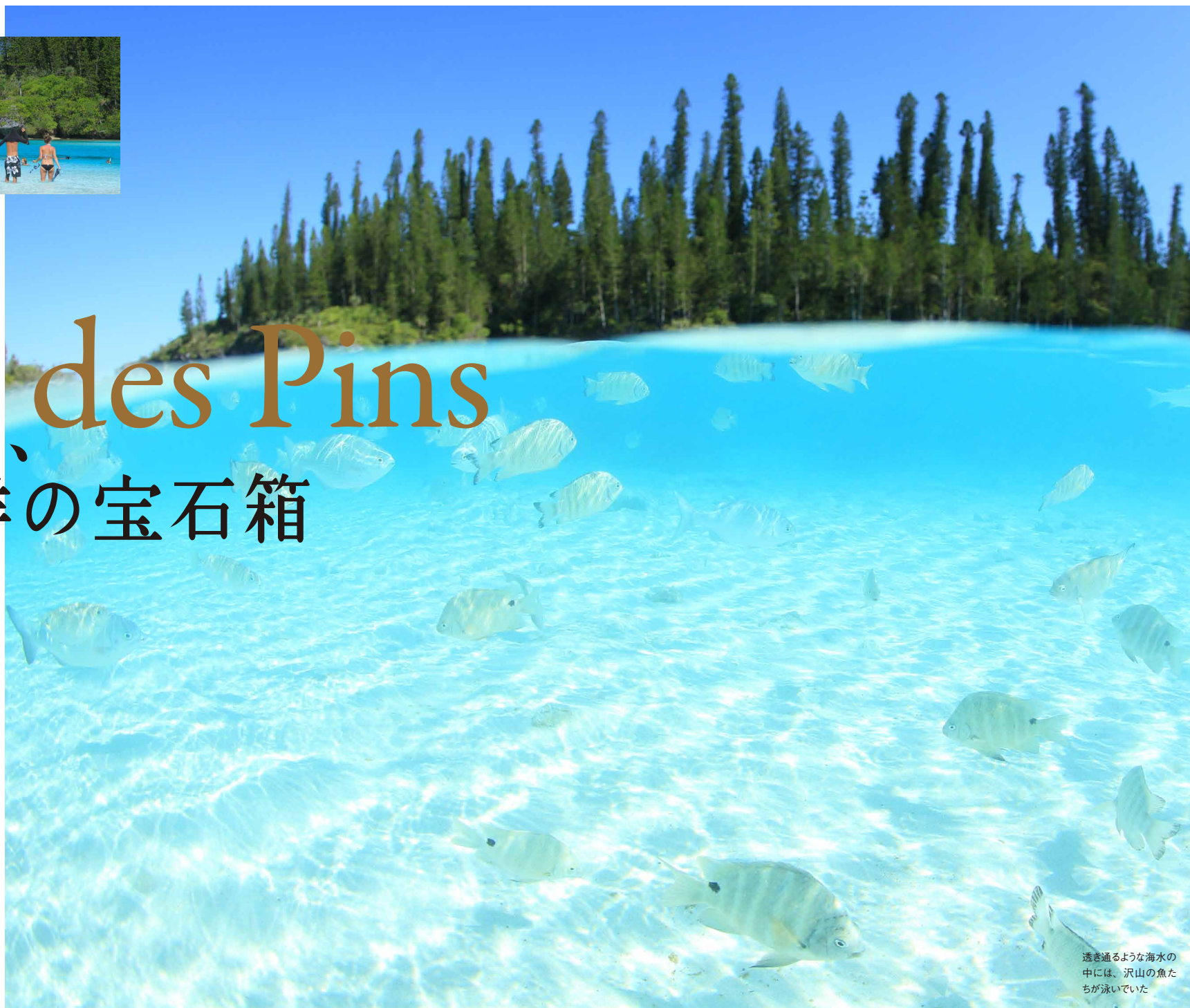


イル・デ・パン #01 Ile des Pins 癒しの島、 南太平洋の宝石箱

ヌメアの国内線空港から、エアカレドニアのオレンジ色の機体に乗って、南を目指す。グランドテール島の山並みが途切れて、美しい海が眼下に広がる。今にも爽快に泡立ちそうなソーダ色の海には、輪っか状になったサンゴのリーフが点在しているの見える。そして、すぐに小さな島々が見えてくる。

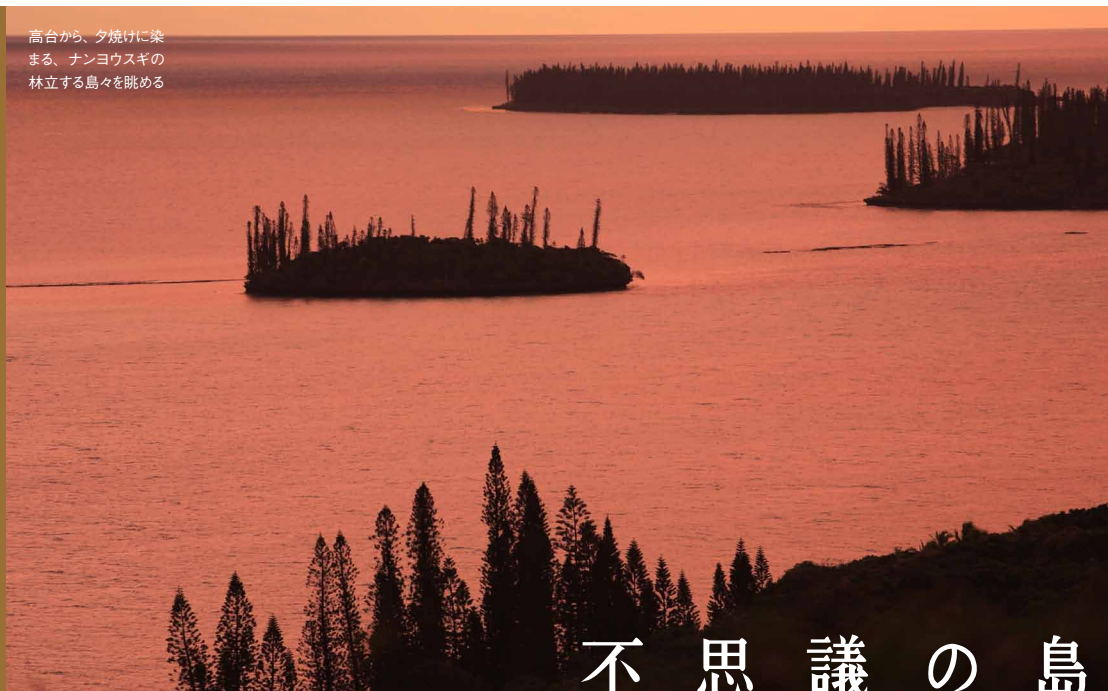
ヌメアから時間にして、約25分のフライトで、ニューカレドニアでもっとも人気の高い観光島、南太平洋の宝石箱とたとえられる、イル・デ・パンに到着する。

島には針のように天空に向かって伸びる、ナンヨウスギが何本も林立していて、独特の景観を見せてくれる。クトビーチやカメラビーチなどのニューカレドニアでも有数の美しい白砂のビーチが点在する。この島周辺もまた、世界自然遺産に含まれる、貴重な海が広がっている。

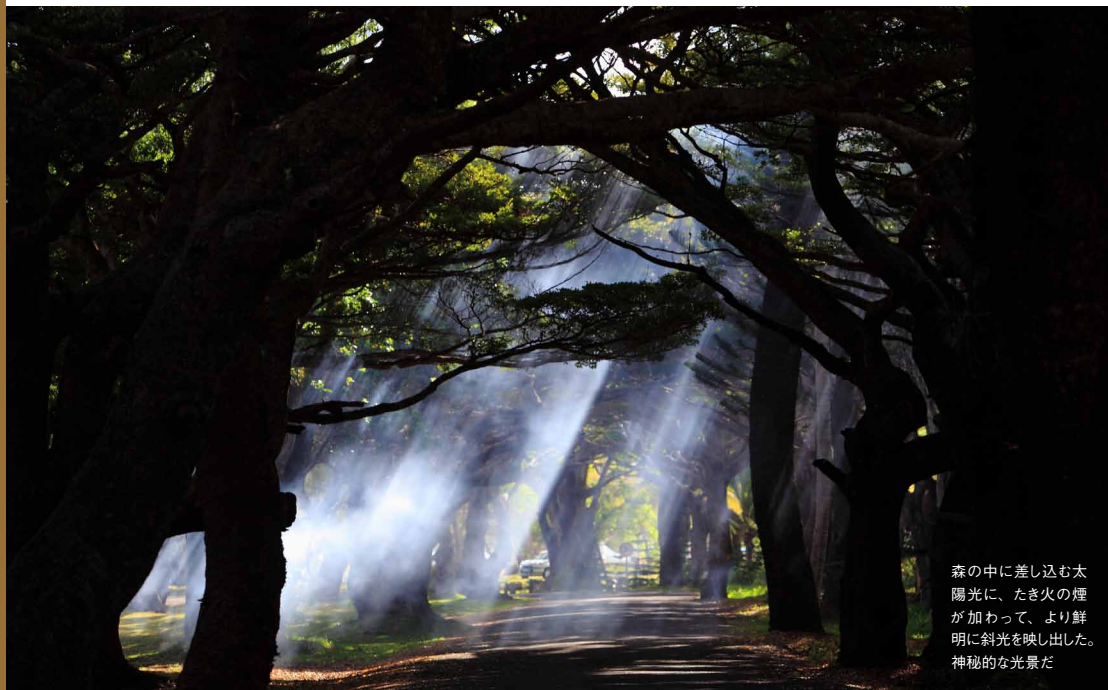


透き通るような海水の中には、沢山の魚たちが泳いでいた

高台から、夕焼けに染まる、ナンヨウスギの林立する島々を眺める



不思議の島を巡る



森の中に差し込む太陽光に、たき火の煙が加わって、より鮮明に斜光を映し出した。神秘的な光景だ

初めてこの島を訪れたときには、まるでおとぎ話の世界に迷い混んでしまったかのような気分になった。それは、ナンヨウスギの林立する森に包まれた、ソーダ色をした浅海の広がるオロ湾を訪れた時であったり。メラネシア人の神々を彫った何本ものトーテムに守られるように中心に立つキリスト像の姿を見たときだったり。過去に政治犯が収容されていたと言われる、監獄跡に足を踏み入れた時であったり。がたがた道を車で登った高台から見た、島々のシルエットに感動した瞬間だったり……。

自分が今までに見て来た南の島の風景とは、どことなく少し違った、この島の独特な雰囲気のせいだったに違いない。そう、まるで寒い国と暖かい国が混在しているような、そんな感じだった。

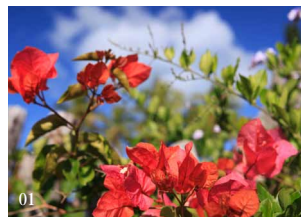
滞在はホテル・コジュー。古いホテルだが、ダイバーにとって嬉しいのは、イル・デ・バン唯一のダイビングサービス、KUNIE SCUBA CENTER が隣接していることだ。KUNIE というのは、現地語で「海の宝石箱」の意味で、イル・デ・バンの現地名でもある。



03



04



01

- 01, ブーゲンビリア
- 02, 花カゴを抱えた女性
- 03, 海から見た、ホテルコジュー



02



05

- 04, 漁師の村で見かけた赤ちゃんと子犬
- 05, サン・モーリスの記念碑



ハードコーラルとソフトコーラルの根の上に様々な幼魚が群れる

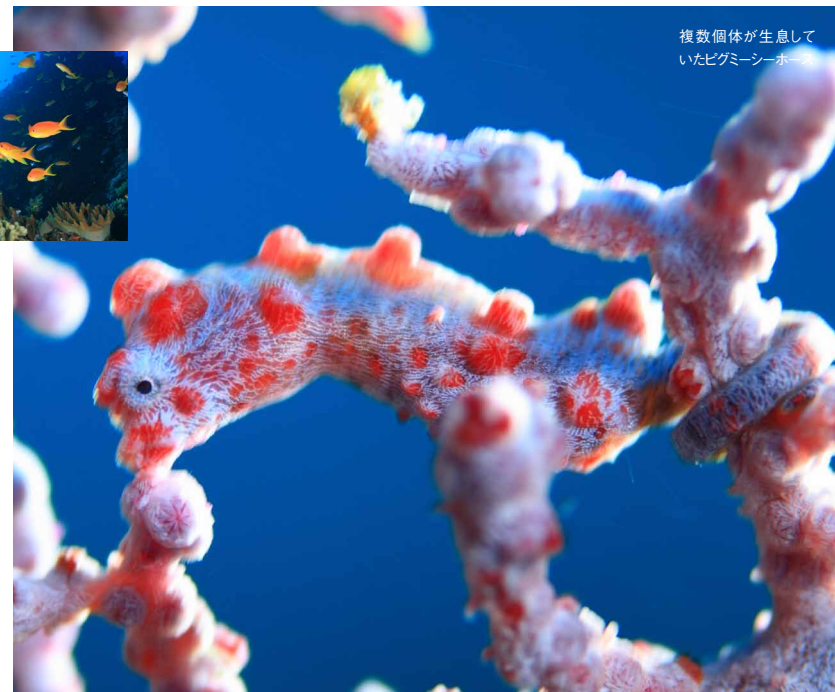


ソーダ色の海が美しいガジ湾

ハナダイの乱舞する根



複数個体が生息していたピグミーシーホース



イル・デ・バンでのダイビングスポットは、北西のガジ湾に集中している。常に貿易風が南東から吹いているから、必然的にポイントはこのエリアに限られるようだ。

海は明るい印象がある。ガジ湾は、いくつもの島に囲まれた浅い海が広がっている。ダイバー以外はなかなか足を踏み入れることができないが、実はこの風景こそ、イル・デ・バンで一番美しいと感じる。マッシュルームのような岩礁や島々に囲まれた水色の内湾に船で足を踏み入れた瞬間、視覚から脳内に、フワッと「癒し」の気が滑り込んで来る感じ。

癒しのエネルギーに満たされる

一緒に乗り合わせていたダイバーたちも、思わずカメラを手に船首に集まり、撮影大会が始まった。

そんな景色を堪能しながら、ダイビングは始まった。バレー・デ・ゴルゴンには、他ではあまり見る事無い、黄色い色をしたイソバナの群生が見られる。複雑な地形を抜け、しばらくリーフにそってドリフトすると、水深25mには、何匹かのピグミーシーホースが住んでいる小さなヤギがある。

さらに移動していくと、リーフのドロップオフから少し離れた場所に、キンギョハナダイたちが乱舞する根がある。潜った時には、潮が止まっていて、ハナダイたちは、まとまりなく乱舞していたけど、ここに潮が当たったら、ハナダイたちは、一斉に潮に向かって泳ぎはじめ、きっと壮観だろうと想像できた。



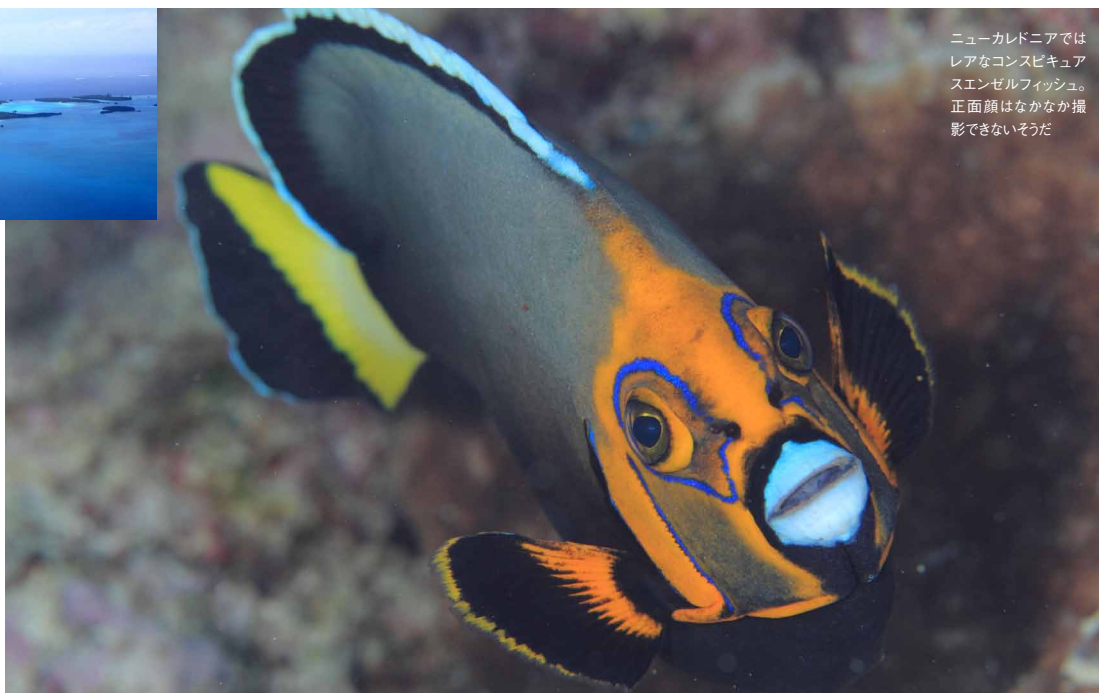
珍しい黄色いイソバナの群生

シン マアジやニセクロホシフエダイの群れる、
レシーフ・ドゥ・カスマラでは、定番の
大物、トラフザメを狙ってのダイビング。その前
日、クニエスケーパセンターのオーナー、ジョ
ン・リュックさんから、「ここでは、回数は少ない
けど、ギターシャークを何度か見たことがある」
と聞かされていた。個人的には、レアなギター
シャークが見たいけど、まあとりあえずは、トラ
フザメだと思ってエントリー。すると、目の前
に突如現れたのは、まるで歌舞伎役者のよう
な顔をしたコンスピキュアスエンゼルフィッシュ。
オーストラリアのロード・ハウ島からニューカレド
ニアまでの固有種だが、ニューカレドニアで見
ることはかなり稀だそう。



ダイビングポイントが
点在する、ガジ諸島

一緒に潜っていたガイドの小川さんも、「ヌ
メアでは何度か見たことがあるけど、イル・
デ・バンで見たのは始めて!」と興奮してい
た。その撮影に少し時間をかけて、また搜索



ニューカレドニアでは
レアなコンスピキュア
スエンゼルフィッシュ。
正面顔はなかなか撮
影できないようだ

海中で遭遇したユニークな魚たち

のために移動を始めた。すると、ガイドがまた
も、興奮して前方を指さしている。「トラフザメ
かな?」と前方を見渡すと、なんとそこにいた
のは、ギターシャーク(トンガリサカタザメ)!!
まさか見られるとは思っていなかった。しかし、
「警戒心が強いから近づけるかわからない
よ」とも聞いていたので、アプローチの方法
を考えた。結果、少し浮上して、真上から垂
直に潜降して撮影することにした。

今 回のイル・デ・バンでは、レア物との
遭遇があっただけで、前回よりもさらに
強く印象に残ったダイビングが堪能できた。

- 01, ホホスジタルミの
幼魚
- 02, ケーブなど複雑
な地形も点在
- 03, ヒメフエダイの
群れ
- 04, シマアジの群れ



こちらもレアなギター
シャーク(トンガリサ
カタザメ)。シャイな
ので、慎重に近づか
ないと撮影は難しい



01



02



03



04



01



02

01,観光客に人気のアメデ灯台。その奥のバリア Reef に人気のダイビングスポットが点在

02,ヘリで遊覧飛行を楽しむ

03,町の景色が絵になる、ヌメア市街

04,ヌメア市内では、撮影したくなるようなカラフルでかわいい建物が目立つ

05,人気のマンタビール

06,ALIZEのポートがあるマリナ

ニューカレドニアの首都、ヌメアの海に初めて潜ったときには、モデル撮影もあった事から、定番の大物マンタとモデルの絡み、ラグーン内のポイントや、ニューカレドニアなど特定の地域でしか見ることのない、固有種の撮影を足早に行い、陸撮影に時間をかけた記憶がある。

しかし、今回はモデル無し。とにかくヌメアの海の魅力を感じるために、潜りまくった。

まずは、定番のマンタ。本来ならヌメアでのマンタのベストシーズンは、4月から9月。取材時はシーズンを過ぎていたのだけど、人気のダイブスポット、パス・ドゥ・プーラリ・アウトで3匹のマンタに遭遇。しかもその全てがブラックマンタ！ヌメアでのブラックマンタ率は、なんと8割というから驚きだ。



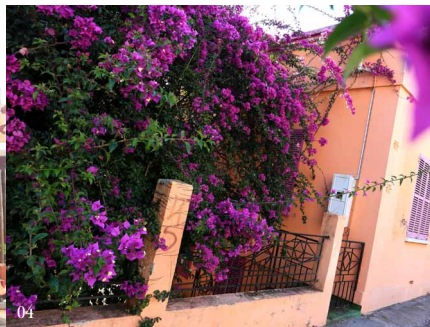
ヌメアのブラックマンタ率は、80%という驚異的な数字

#02 ^{ヌメア} Nouméa

期待以上に面白い、ヌメアの海の魅力



03



04



05

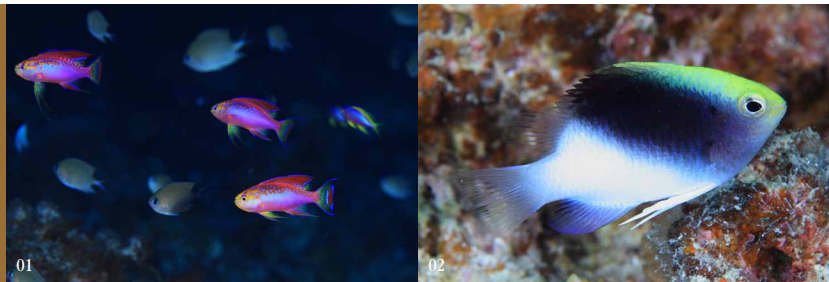


06

水深 25 m でシルバーチップシャークに遭遇!!

ス・ドゥ・ブーラリ・アウトは、ヌメア随一の大物スポットで、今回は、ブラックマンタの他に、10数匹のグレーリーフシャークの他、シルバーチップシャーク2匹にも遭遇。しかもその水深は25mと浅い。ブラックマンタは有名だけど、シルバーチップシャークにこんな浅い水深で会える事は、きっとあまり知られていないことだろう。





01, 宝石たちは、ドロップオフに群れていた
02, NCでは普通種のローランズダムゼル



燃えるような体色に感動するNCのニラミハナダイ



こちらも、カラフルなマゼンタストリークトラス

こは、マンタが出なかった場合でも、飽きることは無い。それは、ニューカレドニアで人気のマゼンタストリークトラスや、ペインテッドアンティアスが浅い水深で、しかも逃げないで観察、撮影することができるからだ。マクロ好きであれば、マンタ狙い、そしてマクロ狙いと2回に分けて潜りたいポイントに違いない。

フオース・バス・ドゥ・ワイトエ

は、北部の水路をさらに北上、ヌメアからアクセスできる範囲では最も遠いポイント。風やうねりの影響を受け易く、なかなか潜りに行けないそうだが、そこで見たニラミハナダイの群れには感動した。それまで、透明度の高さ以外には、あまり変化のなかった海中景観の中に、突如ドロップオフに宝石を見つけてしまったかのような輝きを放つ。しかも、群れだ！ニラミハナダイは、他の海では50mくらいが定番のようなのだが、ここではなんと水深25mくらいから群れるというも驚きだ。

また、学者によっては、小笠原やサイパンなどで見られるニラミハナダイとは別種とした方が良いという見解もあり、「ニラミハナダイ」と和名で呼ばない方が良いのかもしれない。

いずれにしても、この美しいハナダイを見に来るだけでも、このポイントに潜るだけの価値はあると感じた。

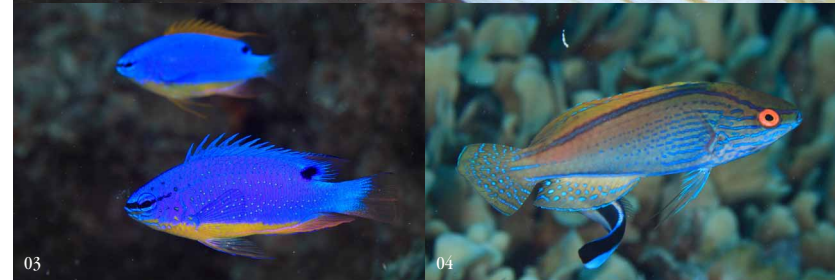
ニューカレドニアの海のアイドルたち



婚期色のペインテッドアンティアス



オドオドした感じがかわいい、スジモヨウフグ



03, オスとメスで背びれの色が違うサウスシーズデビル

04, ランドフェアリース

03

04



01



03



眠気まなこのアオウミガメを撮影していると、別のカメラが何回も通過していった

見渡す限りカメラ!! カメ三昧のダイビング



レックポイントのトーホー5は、元々日本のマグロ漁船。魚影が濃く、船内を覗き見ることできる。周囲にはマクロ生物が点在

テ ババは、前回も潜ったリーフ内のポイント。日本人にも人気のリゾート島、メル島の裏側にあるポイントだ。海底には、泥を含んだ砂地が広がる。透明度はあまり良くないのだけど、ギンガメアジ、バラクーダなど、様々な群れに遭遇できたり、エレガントゴビーやニューカレドニア固有のダテハゼなどマクロ撮影に没頭できたり、ウミガメとの遭遇率も高く、フォト派にはおすすめのポイントだ。

し かし、それよりも、さらにおすすめなのが、その隣にあるタートルスポット。このポイントにエントリーする前に、「何匹カメラに会えると思います?」とガイドの小川さんが、その日ポートに乗船していたゲストや僕に訪ねてきた。他のガイドたちは、「18匹」とか、「20匹!」とか言ってるので、大げさだな～



04

と思いながら、「じゃあ、自分は13匹くらいかな」と答えてエントリー。

そ のポイントにつきなり、小川さんが指差す先に、カメラが1匹、2匹、3匹、……8匹、9匹、

10匹! そのままで数えるのに付き合ったところで、撮影を始めてしまったので、何匹いたか正確には覚えていないけど、優に20匹以上は遭遇している感じだった。

しかも、このカメラたち、ゆっくり泳いでいるし、海底で休んでいるカメラも、逃げない個体は正面からでも撮影できる。カメラオンリーではあるけど、カメラ好きにはたまらないポイントだし、フォト派にも、おすすめのポイントだ。

01,ウミガメのシルエットも撮り放題
02,エレガントゴビー
03,ニューカレドニア固有のダテハゼ
04,バイカラードティーバック

今回のロケでジュゴンに遭遇し、撮影することができた。ジュゴンは、オーストラリアを中心に、太平洋、インド洋の熱帯、亜熱帯域に生息する海洋ほ乳類。オーストラリアに8万頭、その他に



2万頭、計10万頭が生息していると考えられている。しかし、シャイな性格なために、ジュゴンと水中で遭遇できることはなかなか難しい。ヌメアでは、ALIZEのダイビングボートが停泊している港の入り口付近で、頻りにジュゴンを目にする。今回の滞在中も、出発前に3度、戻って来るときに1度、ボートの目の前にジュゴンが姿を見せた。ボートに驚いてすぐに潜ってしまったものの、こんなに船が多い都市部でジュゴンが見られる事は、本当に珍しい。

「11月は交尾シーズンらしくて、以前にも港の目の前で交尾しているジュゴンにも遭遇したことがあります」と小川さん。

7月から9月前半頃までには、グランドタール島南部に、出産、子育てのために、ザトウクジラたちも集まってきていて、研究者たちが個体識別を行っている。

世界自然遺

産にも登録された、ニューカレドニアのバ

リアリーフとラグーンには、そんなレアな海洋生物たちが安心して住むことができる、優しい海が広がり、その海を人々が大切に守っているのだと感じた。

フレンドリージュゴンとの遭遇

まるで口に手を当てて笑ってるみたいなジュゴン(上)

スノーケルをする人の目の前で、こんなにリラックスしているジュゴンなんて本当に珍しい(右)



Diving Service and Stay Information

#01 Ile des Pins

#02 Nouméa



クニエ・スクーバ・センター KUNIE SCUBA CENTER

BP180-VAO-98832 Ile des Pins Tel. & Fax. (+687)46-11-12
 →<http://www.kunie-scuba.com> ✉kuniescuba@canl.nc

1974年にオープンしたイル・デ・パン唯一のダイビングサービス。島の北西部、ガジ地区のウアメオ湾にある、ホテルコジュに併設。ファンダイブは、午前中に2ダイブ。淡水グロッコトダイブや、ナイトダイブ、スノーケリングトリップも開催している。ボートは14人乗り6.5mと16人乗り9mの2隻のゾディアック。

アリゼ ALIZE

123, Promenade Roger Laroque, Anse-Vata, Nouméa.c/o Nouvata Parc Hotel
 →<http://www.alizedive.com> ✉info@alizedive.com Tel. (+687)26-25-85 Fax. (+687)26-25-22

現在、ニューカレドニアで唯一の日本人経営のダイビングサービス。日本人インストラクターだからこそ出来る、きめ細やかなサービス、親切丁寧なガイドが人気。ピギナーからベテランまで、日本人からフランス人までどんなダイバーでも楽しめるダイビングを目指している。ダイビング用に設計された、小型のダイビングボートアンフィプリオン (AMPHIPRION) と、トイレ、温水シャワー付きの高速クルーザーピクティリス (PICTILIS) の2艇で、快適にダイビングが楽しめる。



ホテル・コジュ Hotel Kodjeu

BP75-98832, Baie de Ouameo, Gadjji, Ile des Pins
 Tel. (+687)46-11-42 Fax. (+687)46-10-61
 →<http://www.hotelkodjeu.com>

ガジ地区のウアメオ湾にあり、オーシャンビューバンガローからは、海に沈む夕日が堪能できる。ダイビングサービスが隣にあり、ダイバーには便利な立地。レンタカーサービスもある。



ロイヤル・テラ・ビーチリゾート&スパ ROYAL TERA BEACH RESORT & SPA

140, Promenade Roger Laroque, Anse-Vata, Nouméa
 Tel. (+687)29-64-00 Fax. (+687)29-64-01
 →<http://www.tera-hotels-resorts.com/hotel.royal>

2011年4月にオープン。ビーチフロントでアンズ・バタ湾を見渡せる絶好のロケーション。全室キッチン付きのコンドミニアムタイプで、長期滞在にもおすすめ。3つ星クラスで、総部屋数108室。最新設備を取り入れたスパは地元の女性たちからも人気。フィットネスクラブ、プール、エステサロン、バーなどがある。

Extra Lifou

抜群の透明度と美しいビーチ。リフーへの誘い。



リフーはリフー諸島の3つの島では、リフーが最も大きく人口も多い。シャトーブリアンやロンガ二という、きめの細かい白砂の美しいビーチがあることでも有名だ。
 リフーへはヌメアのマゼンタ空港から国内線飛行機でのアクセスとなる。着陸態勢の飛行機の窓から島を見下ろすと、海面から5～10m、場所によっては20m以上も切り立った隆起サンゴの断崖といくつかのビーチに囲まれ、うっすらと引かれた線のように見える

道路以外は全て木々に覆われる。
 起伏に富んだ地形は水中にも続いている。水深6mのリーフの根があるかと思うと、そこから一気に50mまで落ち込む。そんなスポットがいくつもあり、トンネルやアーチ、クレバスに差し込む日の光が神々しさも感じさせてくれる。
 そして驚くべきは透明度のよさだ。悪いときで30m、よいときは60mを越すほど。島の周りにバリアリーフがなく、外洋と直接つながっているため常に水が澄んでいる。さらに、サンゴの状態はニューカレドニアで一番よい。中でもカラフルなソフトコーラルの見事さは思わず息を呑むほどだ。
 そんなリフーの海を案内するのはAnnabella (アナベラ) が率いるLagoon Safari Lifou (→<http://lagoon.ile.nc>)
 Tel. (+687)45 40 60 or (+687)78 94 72)。リフーの魅力余すことなく紹介してくれる。



ニューカレドニアについてもっと知りたくなったら ニューカレドニア観光局

〒107-0052 東京都港区赤坂2-10-9 ラウンドクロス赤坂9F
 Tel.03-3583-3280 Fax.03-3505-2873
 →<http://www.newcaledonia.jp>

ニューカレドニア南部州 首都ヌメアと南太平洋の宝石箱、イル・デ・パン